

東京商工会議所 会頭

小林 健

わたしの座右の銘



ゴロは正面で捕れ

【派手なプレーをするのではなく、鍛錬を重ねて奇をてらわず、常に考えて予測をしながら地道に物事に取り組むこと】

コーチの言葉に納得

私は三菱商事に入社して間もない若い頃、社内の野球チームでショートを守っていました。あるときコーチからかけられた言葉が、この言葉です。ジャンピングスローでアウトにするような派手なプレーではなく、足腰を鍛え、バッテリーのサイン交換を見ながら球の行方を予測し、打球が来たら常に正面に回り込んで、確実にアウトにする。それこそが内野の名人だ、と言うのです。確かにその通りだと、深く納得しました。

日常の仕事の中では、奇をてらったり、策を弄したくなったりすることが誰しもあります。しかし、それは本筋ではありません。結果的にうまくいけばよいとしても、失敗したときには悔いが残ります。だからこそ、足腰を鍛え、ゴロが来たら常に正面で捕ってアウトにする。奇をてらわず、策に溺れず、そこに先見性を加える。この姿勢は、経営者としても通じるものだと思います。

地味でも正面に回り込め

見た目が派手であるということ、どこかに余裕がないということでもあります。すなわち、考える間もなく反応している状態です。そうした行動を人は「運動神経がいい」と表現しますが、そこにはアンティシペーション（予測）が欠けています。アウトカウントやランナーの状況、ピッチャーとキャッチャーが交わすサインを見ながら、ある程度先を読み、バッターが打った瞬間に正面に回り込んで、確実にアウトにする。

一見すると地味で面白味に欠けるプレーかもしれませんが、私はそれ

こそが最も大切だと思います。どんな仕事であっても良く考え、たとえ準備の時間が限られていたとしても、直感や運動神経だけで判断・行動することは、特に人を率いる立場にあつては、してはならないことです。

これまでの職業人生を振り返ると、その時々判断や仕事への向き合い方の基本は、この言葉に集約されていると、今になって強く感じます。派手なプレーは人から喝采を浴びるかもしれませんが、人生は幸運の連続だけで成り立つものではありません。地味でも正面に回り込み、それでもエラーをしたならば、それは仕方のないことです。商工会議所の活動も同様で、奇をてらわないことが何より大切です。大衆受けを狙った発言や行動をしてはならないのです。

足腰を鍛え、おのずと守るべき場所へ

自分は報われていないのではないかと感じる人があっても、どこかで必ず見ている人がいます。地道に、きちんと、毎日取り組むことが大切です。長年仕事をしていると、「これは奇をてらっているな」という振る舞いは、すぐに分かるものです。年代やキャリアに応じたキャパシティー（許容量）があり、神業のようなことは誰にでもできるわけではありません。だからこそ、常に謙虚な気持ちで過ごすことが重要です。

たまには派手に見えるプレーも必要かもしれません。しかし、そればかりを続けていても意味はありません。若い方々には、まず足腰を鍛えることを勧めたい。そうすれば球の行方が見えてきて、おのずと守るべき場所に立てるようになるはずで

役員・議員企業などの皆さまの
座右の銘を紹介する
連載企画わたしの
座右の銘

東京商工会議所 副会頭

野本 弘文

わたしの座右の銘



和而不同

【周りとの調和を重んじつつも、自分の考えはしっかり持つこと。「和して同ぜず」】

小さな商店で学んだ

「和而不同」の原風景

私の実家は、酒屋と果物屋を営む小さな商店でした。店には「角打ち」もあり、ときには酔っ払いも訪れます。そんなときの母の対応は実に見事でした。からかうような相手に対しても、機嫌を損ねることなく、鮮やかに受け流していくのです。その姿を横で眺めながら、私は自然と「人との接し方」の極意を学んだように思います。やがて高校の漢文の授業で「和而不同」を習ったとき、母の姿と重なり、答え合わせをしたような気持ちになりました。

「和而不同」は、「和」を先に置きます。まずは相手と調和し、関係を築くことの大切さを示しています。そこに必要なのは「利他」の姿勢です。自分だけが得をするのではなく、相手にとっても意味のある着地点を探る。そのバランスの見極めが「和する」ための要になります。

一方、「同ぜず」とは、迎合しないということです。声を荒げる必要はなく、自分の思いや考えを静かに保ち続ける。今は意見が交わらなくても、対話や時代の変化が理解の橋を架けることがあります。争わず、それでいて決して軸を失わない。その姿勢が「不同」であると感じています。

目指す未来を共有することから

共創は始まる

私は仕事をよく井戸掘りに例えます。水脈を見つけても、井戸は一人では掘れません。掘る人、くみ上げる人、ボトリングする人——多くの役割が有機的につながり、初めて水は人々の喉を潤します。どの事業も同

じで、成功の鍵は「何のために」井戸を掘るのかという目的を、関わる人々に共有できるか否かにあります。

渋谷などの都市開発に携わる中で、私はまず「この人たちとなら楽しいことができそうだ」と感じてもらうことを大切にしてきました。「このまちをこうすれば、住む人も訪れる人も働く人も喜ぶ」という将来像を共に描き、対話を重ねることで共感が生まれ、協力者が自然と広がっていきます。それが共創による新たなまちづくりへとつながります。

企業の使命とは「社会に役立つことを事業化し、継続すること」だと私は考えています。その過程では、様々な立場の人と向き合います。だからこそ「和」の姿勢が欠かせません。相手の状況を丁寧にくみ取り、双方に望ましい道筋を示すことで、異なる意見は次第に一つの目的へと収束していきます。まさに、正・反・合です。

立場を越えた共通項を、
未来への道しるべに

東商で皆さまと活動するときも、私は常に「和而不同」を心に置いています。異なる立場から課題を持ち寄り、議論を重ねることで共通項を見つけ、地域そしてわが国が、共により良い未来へ進むための提案にまとめる——それが商工会議所の役割であり、醍醐味でもあると感じています。

「和して、同ぜず」。相手を尊重しながら、自分の軸はぶらさない。この姿勢が、組織でも地域でも事業の場でも、豊かな関係性と持続可能な営みを生み出す力になるはずで

こばやし・けん 三菱商事相談役。副会頭、顧問、特別顧問を歴任。2022年11月より会頭を務める。

のもと・ひろふみ 東急会長。観光・まちづくり共同委員長、オリンピック・パラリンピック特別委員会共同委員長などを歴任。2018年5月より首都圏問題委員長、同年6月より副会頭を務める。

地球と。
咲きに行こう。

The Blooming Field of Planetary Citizens.



GREEN×EXPO 2027

開催期間：2027年3月19日(金) — 9月26日(日)

開催地：神奈川県横浜市（旧上瀬谷通信施設）

主催：公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会

公式販売Webサイト、または旅行代理店や各種プレイガイドから購入できます。
<https://expo2027yokohama.or.jp/>チケット購入は
こちらから公式マスコットキャラクター
トウクントウク
©Expo 2027